



春は新しいことを  
始めたくなる季節。  
いろんなことにチャレンジ  
して行こう！

北海道の国際協力情報紙

特集

# 「エジプトの今」 先生が見つめた

世界には様々な国の文化や暮らし方があります。しかし日本で生活しているとなかなか気づくことはできません。今回は学校の先生が、インターネットや書籍では調べられない世界事情を子どもたちに伝えたいとの思いを胸に、エジプトへと向かいました。

## 先生達の実体験が 生きた教材に

古代ギリシアの歴史家ヘロドトスの『歴史』に「エジプトはナイルの賜物」とあるように、広大な砂漠の中に古代文明と生命の源として長大なナイル川が横たわる国、エジプト。その国を、JICA教師海外研修一行が訪れました。空港から首都カイロの中心部へ。道には車があふれ、その間を縫うように人々が道路を横断しています。あちらこちらで鳴りっぱなしのクラクション。タクシーが客の注意をひきつけたり、後方から近づいているという知らせだったり、さまざまな合図として使われているということでした。

この研修の目的は、エジプトを題材にした教材開発です。エジプト滞在は9日間。ストリートチルドレン保護施設や学校の訪問、技術協力プロジェクトや青年海外協力隊員の活動視察など、多くの素材を見聞きしてきました。



わー！みんなキレイ！  
どこの国でも  
女の子はオシャレが  
好きなんだね。

▲ベニスエフの子どもたち。おめかしをして集まってくれました。



jica ジャイカ

2010  
SPRING

VOL.56

今回は  
エジプト  
特集だよ



▲ボラロイド写真に写った  
自分の姿を見つけて喜ぶ子どもたち。

そのエジプトで感じたのは、「ノーマライゼーションの先進国」という姿でした。カイロに到着し市内を歩いてみると、道路の両側に駐車車両が連なって交通を妨げ、歩道は歩くのもままならないほどゴミや段差だらけ。「人にやさしくない国だなあ」と思いましたが、現地に住む人に聞くと、段差のある場所では見ず知らずの人々が寄ってたかって車いすを抱えあげ、乗り合いバスでもすぐに席を譲ること。ハード面ばかりを気にして、それを改善すれば満足しがちな日本ですが、大切なのは「人々の心」というソフト面なのだということをあらためて感じました。

環境や経済などさまざまな課題を抱えながらも、彼らが一番大切にしているのが家族であり、個々の経済活動を優先する日本との違いを感じました。「エジプト人は家族が幸せに暮らし子どもをたくさん作ることを第一に考える。物質的に豊かになることを願う日本人とは『幸せの単位』が違う」としみじみ話す参加者もあり、日本人が失いかけていたものに出会って、うらやましく感じることがたくさんありました。

